

今年の教区の目標

神に希望の锚をおろすなら
すべては祝される

〒902-0067 那覇市安里3-7-2
カトリック那覇教区本部
TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474
発行人 W.F.バートン司教 1部40円
<http://www.naha.catholic.jp/>

(1) 2025年 7月1日 (毎月1日発行) カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ

第800号 (7月号)

戦後80年 6・23沖縄慰霊の日追悼・平和祈念ミサと平和巡礼



Guest Cardinals and Bishops

▲共同司式の枢機卿、司教たち (小緑教会聖堂)



Holy Mass

▲追悼ミサ (小緑教会聖堂)



Participating Cardinals, Bishops and Priests

▲参列された枢機卿、司教と司祭たち (小緑教会聖堂)



Walk for Peace!

▲平和巡礼 (翁長コンビニ前)



Prayers being offered for the Victims of War.

▲戦争で犠牲になられた方々へ追悼の祈り (ひめゆり会館駐車場)



Reading of the Bishop's Message

▲ウェイン司教と代表者のメッセージ (魂魂の塔)

沖縄慰霊の日 追悼・平和祈念ミサ 菊地功枢機卿説教

世界を巻き込んで多くの人の命を奪い、また多くの人のその後の人生の道筋を大きく変えた戦争が終結してから、今年で 80 年という節目の年を迎えました。

本日、6 月 23 日は、沖縄慰霊の日であります。日本のカトリック司教団は、今日この沖縄の地であって皆さんと一緒に祈りの時をともにできる機会をいただいたことに、感謝しています。と同時に、この地であって祈りの時をともにする中で、あらためて平和を実現するために力を尽くす誓いを新たにすることを強く心に抱いております。

この数日、イスラエルとイランに米国を加えて武力衝突が深まり、戦争が勃発するのではないかという不安と、核兵器の使用が取り沙汰されることへの懸念が世界中で広がっています。そのような現実の中で、先日帰天された教皇フランシスコが、2019 年に長崎を訪問した際に述べられた言葉を思い起こしております。「軍備拡張競争は、貴重な資源の無駄遣いです。本来それは、人々の全人的発展と自然環境の保全に使われるべきものです。今日の世界では、何百万という子どもや家族が、人間以下の生活を強いられているにもかかわらず、武器の製造、改良、維持、商いに財が費やされ、築かれ、日ごと武器は、いっそう破壊的になっています。これらは天に対する絶え間のないテロ行為です」。さらに教皇は広島で、「紛争の正当な解決策として、核戦争の脅威による威嚇をちらつかせながら、どうして平和を提案できるのでしょうか。・・・真の平和とは、非武装の平和以外にありえません」と力強く呼びかけられました。どのような視点から見ても、人間の尊厳を損ない、神からの賜物であるいのちをないがしろにした暴力の嵐である戦争を、良しとすることはできないはずです。そこに多くの涙と悲しみが生み出された事実を否定できる人はいないはずです。長い時間が経過するにしたがって、その歴史の教訓を忘れ去り、再び同じおろかな行為をしないと誓ったその心の思いから目を背け、歴史の悲劇を美化しようとする向きさえあります。

あらためてわたしたちは、神から賜物として与えられたいのちの尊厳を守り抜く務めが創造主である御父から与えられていることを心に留め、命がその始まりから終わりまで、例外なく徹底的に守り抜かれるようにと、世界に向けて呼びかけたいと思います。

日本の司教団は、先日開催された司教総会の場で、戦後 80 年司教団メッセージ「平和を紡ぐ旅」を採択いたしました。副題として、「希望を携えて」を掲げております。時間の関係でその全文をここで朗読して紹介することができませんので、是非それぞれの手に取ってお読みいただければと思います。現在の日本のカトリック司教団の平和への思いの結実でもあり、特に若い世代のみなさんに呼びかけるメッセージでもあります。

メッセージの中で、司教団は日本被団協がノーベル平和賞を受賞した意義に触れ、「80 年が経過した今、実際に戦争を経験した人は非常に少なくなってきました。だからこそ、わたし達は歴史的事実に向き合い、学び、記憶に留め、次世代に伝え、平和のために生かしていかなければなりません」と呼びかけました。

その上で、教皇フランシスコの広島におけることば、「思いだし、ともに歩み、守る。この三つは倫理的命令です」を心に留めて、「若者のみなさんが広島や長崎、そして沖縄に、巡礼や平和学習の旅をなさるのはとても大切な、意義のあることです」と指摘しました。本日このように多くの方が沖縄の地に集まり、歴史の事実を思い起こし、ともに歩み将来へ伝え続けようとしていることには大きな意味があります。

またこのメッセージの中では、沖縄や南西諸島の現実にも触れさせていただき、「沖縄の人々は、80 年前の恐ろしい戦争の記憶、米軍基地に関連する様々な暴力事件に苦しみながらも、あくまで非暴力による平和アピールを続けてきました。戦争を二度と繰り返さないように。性暴力を含む基地由来の被害が二度と起こらないように。そう叫び続けてきたにもかかわらず、今また、ミサイル基地等が目の前に作られているのです。沖縄の年配の方々の間で、「戦争の準備をしている」「戦争前と同じ歩みをしている」という声が聞かれます」と記させていただきました。

戦争はあるとき急に宣言があつて始まるものではなく、少しずつ忍び足で近づいてくるものです。その忍び足の足音に耳を澄ませ、暴力で解決を図ろうとする動きに明確に NO を突きつけなくてはなりません。

平和を語ることは、戦争につながる様々な動きに抗う姿勢をとり続けることでもあり、同時に人間の尊厳を危機にさらし、いのちを暴力的に奪おうとするすべての行動に抗うことでもあります。

司教団メッセージでは核兵器の廃絶についても触れていますが、それとは別にわたしたち司教団は、核兵器廃絶についての宣言も今回の総会で採択しております。

こういった現代社会の現実の流れを踏まえたとき、わたしたち司教団は、あらためてわたしたちの主張する平和について、メッセージに記しました。

平和とは、核兵器や武力の均衡によってもたらされるものではありません。ひとり 1 人のいのちを守ることが最優先であると考えのなら、武力の行使こそは、なんとしてでも避けるべきですが、実際にはそのような考えは非現実的だと批判されることもしばしばあります。非武装の平和を語ると、夢物語だと揶揄されることも珍しくありません。特にその傾向は、この数年の間に強まっていると感じます。

沖縄にとって、そして日本全体にとって、また世界にとって、平和を真摯に考え祈るために大切なこの日に、こうやって実際に沖縄の地に立ち、祈りを捧げるわたし達は、あらためて、神の平和がこの世界に実現することを願い、またそのためにわたし達一人ひとりが働き続けることを誓い、平和の源である神の祝福と導きに信頼しながら、声を上げ行動し続けて参りましょう。



2025年6月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時：2025年6月10日(火) 10:00～12:00 於・安里教区センター

出席者：ウェイン司教、クレーバー神父、マキシム神父、ナビーン神父、ロドニー神父、リカルド神父、ボスコ神父、
フランシス神父、ヨアキム神父、ブイ神父、マイケル神父、ピーター・チェ神父、浜崎神父、石垣助祭、
マーシーさん、津波古聡、新田選。

欠席者：デニス神父、紙崎神父、押川司教。

司会はナビーン神父が担当、開式の祈りはウェイン司教が担当した。

1. 報告及び連絡事項

- ・ 前回(5月会議)の報告を新田が行い、承認された。
- ・ 出張、休暇、研修等の不在予定の報告が行われた。
 - ー フランシス神父、7/1～8/1、休暇のためベトナムへ。
 - ー リカルド神父、7/1～7/22、ミッションアピールのためアメリカへ。
 - ー デニス神父、5/19～6/18、休暇のためインドへ。
 - ー ウェイン司教、6/16～6/20、定例司教総会、潮見へ。
- ・ 3教区合同黙想会について、マイケル神父とブイ神父から報告が行われ、参加した他の司祭たちからも感想が述べられた。来年は那覇教区で行われるので、皆から報告された意見や反省点を踏まえて準備していくことが確認された。
- ・ 沖縄キリスト教協議会声明文、「戦後80年を迎えるにあたって」が、担当のクレーバー神父から司祭たちに配られ、浜崎神父が代読して分かち合った。各小教区にも掲示して、信徒たちにも分かち合うよう要請が行われた。
- ・ 安里教会のガジュマルの大木について、樹木医のアドバイスのもと対策してきたが、再び大木の根が保育園の建物にも影響してきているので新たな策を検討したいとの報告があり、意見が求められた。検討の結果、再度樹木医を交え、伐採しか手段がないかを慎重に検討していくこととされた。
- ・ その他、先月、不在だったヨアキム神父に、司教から任命書が手渡された。

2. 審議事項

- ・ 6・23「平和巡礼」について、日程の説明と準備状況が報告された。日本司教団も13名の司教方が参加され、司教協議会会長の菊地枢機卿が「慰霊と平和祈念ミサ」の主式をされることが報告された。ミサ会場の準備を担当するマキシム神父からは、小禄教会敷地での駐車台数は限られているので、出来るだけ必要の方のために配慮するよう、各小教区で通知することが要請された。また、巡礼と魂魄の塔での祈りの集いを担当するブイ神父から、準備状況の説明が行われた。
- ・ サマーキャンプについて、担当のブイ神父から報告が行われた。6/22までに各小教区へポスターと参加申込書を送付するので、早目に申し込まれるよう要請があった。また、寄付を募るので、信徒たちへの協力を呼び掛けるよう依頼が行われた。ウェイン司教にもキャンプの最終日となる8/3(日)と8/13(水)の午前10時からミッションビーチで子供たちと共にミサを捧げて下さるよう要請が行われた。教区行事の1つであり、大人の方々の積極的な関わりを呼び掛けるよう主任司祭たちにも要請が行われた。
- ・ 司教予定が報告された。
- ・ 6/15、泡瀬教会公式訪問。6/29、開南教会公式訪問。7/6、石川教会ミサ司式。7/13、安里教会ミサ司式。7/19～20、石垣教会ミサ司式。7/26～27、石垣教会ミサ司式。
- ・ その他、マイケル神父から、司祭たちにラインで典礼委員会からのアンケートを送るので、答えを返送されるよう要請が行われた。
- ・ 司教座である開南教会には、聖年の全期間に渡って聖年の十字架を聖堂の内陣に掲げておくよう要請が行われた。

※次回司祭助祭拡大会議は7月1日(火) 午前10時から、安里の教区センターで開催される。

カリタス沖縄の活動報告

研修会 ◆ 6月22日(日)文化センターで、新潟教区成井司教様をお迎えして研修会を行いました。

テーマは、令和6年度能登地震—カトリック教会の支援活動—。始めに【創造主への祈り】(故フランシスコ教皇「兄弟の皆さん」より)を皆で祈りました。

大きな災害が起きると日本中、世界中からさまざまな支援が集まります。ボランティア活動も活発になりますが、基本的には外部からのサポートです。でもカトリック教会の支援は、共に生きる＝死さへも共有する内からのサポートです。東日本大震災の年に得た体験を生かし、外部ボランティアが少なくても家族が作業に打ち込めるように幼稚園の再開を最優先にしたり、支援の手が届かない人をシスター

が訪問するシスターズリレー、のんびり集える「じんのび食堂」の設置、クリスチャンとしての生活と奉仕の欠かせない祈りの集いを持つことなど、心の支えを通して、共に生き続けました。司教様のお話から、カリタスジャパンと社協(社会福祉協議会)のつながりの大切さを学び、万が一の場合に備えてカリタス沖縄も社協と連携を強めておきたいと思いました。

カリタスの支援は小さなニーズに応じて草の根活動をしていることが、東日本大震災以来社協にも伝わったようです。沢山の素晴らしい活動話を全て書けないのが残念ですが、今後カリタス沖縄の活動を通して実践していければと思います。

カリタス沖縄委員 増田麻実



「平和巡礼」発案者、ラサール神父様のウチナーを愛する思いに寄せて

宮古島平良教会 伊志嶺節子

今年も「6・23慰霊の日」がやって来ました。

「グスーヨーチューウガナピラ」とラサール神父さんの大きな声が聞こえてきそうな気がし、神父さんのことが思い出されます。記憶は定かではありませんが、1970年代に、神父さんの発案で、毎月平和学習が開かれ、講師にイエズス会の山田経三神父様(「解放の神学」著者)を招いたり、伊江島を拠点に非暴力平和活動をされておられた阿波根 昌鴻さんを訪ねたりしました。

その学習会から那覇教区平和委員会を発足し、後に「正義と平和委員会」と名称を変え、神父さんの発案で、「平和巡礼」へと繋がっていったのでした。沖縄戦で亡くなり、身元も分からないまま道や野山に散乱していた遺骨3万5千人余を住民たちが1ヶ所に埋葬した「魂魄の塔」まで巡礼することを発案、神父さんの「チムグルサン」の思いが滲み出て頭が下がる思いでした。最初の頃は、神父さんとシスター平山、私の3人で下調べに行き、場所や距離を確認。その後、

平和委員会のメンバーで、早朝の小祿教会でのミサに始まり、魂魄の塔までの距離を実際に歩いて、休憩の場所や、「十字架の道行き」を祈ってはどうか、体験者の証言を聞いたらどうか、等の案を出し合いながら、現在続けている形へと繋がっていったのでした。

今年、39回目を数える平和巡礼。最初十数名の参加者で始めた平和巡礼でしたが、参加される方々も増え、現在は途中から合流される方々を入れると数百名を超える参加者となっています。ラサール神父さんの撒かれた種が実を結び、花開いたように思う一方で、現代世界はなんと混沌としていて平和には程遠いことか。それでもラサール神父さんは「希望は裏切らない」と私たちに伝え、「しっかり歩きなさい」と励ましてくださっていることでしょう。沖縄の心に根差し、多くの人に多大な影響を与えて下さった神父様に、深い感謝と祈りを共に捧げたいと思います。

第56回(2025年)サマーキャンプのお知らせ

今年もサマーキャンプを迎える時節となりました。今年は2泊3日の日程で実施することに致しました。子供達が普段会うことのできない他教会の仲間達と出会い、祈り活動する中で絆を深め、喜びのうちに神様について学ぶ良い機会です。大勢の子供達の参加で、有益な体験となることでしょう。ふるってご参加ください。サマーキャンプに参加する子供達の安全と指導、助けとなるヘルパーの皆様の御協力を必要としています。経験・未経験に関わらずご応募いただき、実り多いサマーキャンプとなりますよう、御協力宜しくお願い致します。

テーマ: 希望の人となって Become a person of Hope



1. 日 時 (Schedule)

小学3年生～6年生……………8月1日(金)～8月3日(日) 午前9:30～午後5:00

Elementary, grades 3～6… August 1 (Fri)～3 (Sat) 9:30AM～5:00PM

受付(Opening): 13:00～/解散(Closing): 12:00

中学・高校生……………8月11日(月)～8月13日(水) 午前9:30～午後5:00

Junior/Senior High …… August 11 (Mon)～13 (Wed) 9:30AM～5:00PM

受付(Opening): 13:00～/解散(Closing): 12:00

2. 場 所: 那覇教区ミッションビーチ(恩納村) (Mission Beach)

3. 参加資格 (Participants)

洗礼を受けていること(原則、初聖体を終えていること)

(Received the Sacrament of Baptism; Received the First Communion)

4. 参加費 (Participating Fee) 小学生: (Grade School) 1,000円 中高生: (Junior & Senior High) 1,500円

※参加費はお返しできませんのでご了承ください。(Once the registration form is received the participating fee cannot be returned)

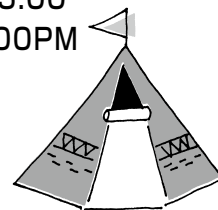
5. 申込み期間 (Registration Period) 2025年7月21日(月)※締め切り厳守 July 21 (deadline of submission)

6. お問い合わせ先 (For Inquiry)

ヨセフ・ブイ神父 (Summer Camp Priest In-Charge: Fr. Joseph. BUI) Cel. 080-3995-1909(携帯)

7. 7月27日(日): 大掃除 13時から～(現地集合をお願いします)

July 27th General cleaning will start at 1:00PM



※参加申込書に必要事項を記入の上、所属教会主任司祭にご提出ください。

※当日朝、体温測定を行っていただき、体調に不安がある方は、参加を御遠慮くださいますようお願いいたします。

ご協力のお願い

1949年、ほとんど信者が残っていなかった沖縄で再開されたカトリック教会は、1973年2月11日に那覇教区となり宣教活動を続けています。これまで多くの司祭や修道者、各修道会、信者の皆様に那覇教区で活動して頂きました。聖年を迎え「那覇教区の活動を振り返る機会があったらいいね!」の声があり、その1つの手段として写真展を企画しております。そのために各家庭に保存されている「写真」を提供して頂きたいと思っております。対象になるのは教区の日、献堂式、叙階式、誓願式、大聖年関連、聖体大会、クルシリオ、マリア祭、平和巡礼、聖書週間作品展、聖書展、講演会、カトリック書道展、黙想会、研修会、サマーキャンプ、女性の会、青年会、壮年会、県民クリスマス、キリスト教一致祈祷集会、その他地区主催の関連行事に関する写真がありましたらご提供頂きたいと思えます。尚、対象のものがわかりにくい場合は、お気軽にお問合せ下さい。写真の裏には撮影日付、お名前とご連絡先、返却の要・不要をご記入下さい。希望の巡礼者として未来へ動き出すためのきっかけになればと思います。皆様のご協力をよろしくお願い致します。

募集期間: 5月1日から8月30日

連絡先 カトリック泡瀬教会 山田圭吾(090-1344-5702)

写真受付 カトリック文化センター (098-868-6469 担当・崎山利香)

声

角笛

二〇二五年

聖年の巡礼の旅①

コザ教会 金城 愛子

けがれなき聖母の騎士会沖縄支部(以下・騎士会)では聖年「希望の巡礼者」特別企画として押川壽夫名誉司教様(以下司教様)を団長に二二名で長崎巡礼をしました。巡礼の旅の目的は信仰のふるさと、迫害を乗り越えて信仰を守って来た信者達の教会を巡礼してその信仰の心に触れることでした。

五月十九日、福岡空港着後、最初に向かったのは、聖年の巡礼指定教会で「けがれなき聖母」に捧げられた浦上天主堂でした。被爆マリアの祭壇の前で旅の安全を祈りました。

次に日本二十六聖人殉教地西坂公園そして二十六聖人に捧げられた「信徒発見」の大浦天主堂を訪問し祈りを捧げました。そのあと日本におけるけがれなき聖母の騎士会本部を訪問し、聖フランシスコ修道院聖堂で司教様主司式によるミサに与かりました。司教様は説教のなかで神学生時代のエピソードを交えながら「病氣も貧困も実際に体験してみ

ないと分からない。巡礼も同じである。聞いただけでは分からない。現地に実際に来てみないと分からない。迫害、苦難を乗り越えて信仰を守って来た信者たちゆかりの地を巡礼して少しでも先人達の信仰に近づき、当地に來られた喜びと恵みに感謝しよう。」と巡礼の意義について話してくださいました。

説教の後、元石川教会主任司祭藤澤幾義神父様の司式で石川教会のマグダレナのマリア新里草奈江さんのけがれなき聖母の騎士会への入会式が行われました。共同祈願では巡礼者の祝福、騎士会の会員や教区の病者や死者のため、世界平和のために祈りました。

ミサのあと、聖コルベ神父記念館(資料館)を訪ねました。館内にはコルベ神父のゆかりの品々が数多く展示されていました。中でも大型印刷機器と神父の居室の中に一緒に来日したゼノ修道士手作りの神父愛用の大きな机と椅子が印象に残っています。清貧の生活で活動した當時を伝えるものと修道士の方が説明して下さいました。

一九八一年二月二六日修道院を訪問なさったヨハネ・パウロ2世は次のように語っておられます。「コルベ神父は『メディアによる福音宣教』と『マリアを通してイエスの御心へ』という

信心の奨励という特別の使命を悟っており、『無原罪の聖母の町』の創立と『聖母の騎士』誌の発行は、彼にとつては、おとめマリアから生まれた神のみ子、キリストをすべての人に知らせるという同じ基本計画の一部でした。教会は福音をのべ、すべての人に救いをもたらす使命をキリストからゆだねられていま

す。マリアを通る以外にその御子に近づくすぐれた道はありません」と。コルベ神父が福音をのべ伝える手段として文書伝道を重視していたかが分かる言葉です。因みに、月刊誌「聖母の騎士(式〇式四年十二月号)」に「一九三〇年五月式四日、ポーランドのニエボカラヌフ修道院に、日本から一通の電報がとどいた。『キョウ ソウカンゴウヲオクルムゲンザイノセイボ バンザイ マキシミリアノ』。薔薇の薫るうるわしい聖母月に、日本で初めてとなる日本語の月刊『無原罪の聖母の騎士』が産声を上げた」との記述があり、爾来、今年七月号で通巻一〇五〇号となっています。

一九八二年にコルベ神父はヨハネ・パウロ2世によつて、聖人となりルルドは一九八四年にバチカンの公式巡礼地に指定されたとのこと。残念ながら日程の都合でルルドには行けません

でした。機会があればルルドに特化してゆつくり訪ねたいと思いました。

翌日二〇日には岬のマリア像に見送られてジェットホテルで、長崎港を出発、上五島町奈良尾港へ。桐教会(聖年の巡礼指定教会で聖ペトロに捧げられた教会、中ノ浦教会(おとめ聖マリアに捧げられた教会)と頭ヶ島教会(聖ヨゼフに捧げられた教会)を訪問し祈りを捧げました。

当教会は、キリシタンが禁制の信仰を続けるため、周囲と接触が少ない場所を選び、そこで宣教師不在のなか、ひそかに独自の信仰を続けました。そのことからキリシタンが信仰活動を続けた集落自体が潜伏信仰の物証であり、世界遺産として登録されています。

二日目のミサは青砂ヶ浦教会でデニス神父様の主司式により捧げられました。この教会は大天使ミカエルに捧げられた教会で海岸から小高い建設地まで老若男女問わずレンガを背負って労働奉仕を行っていた教会です。

巡礼三日目は雨の中の巡礼でした。仲知教会(聖ヨハネ五島に捧げられた教会、聖年の巡礼指定教会でもある)で司教様主司式のミサが捧げられました。ガイドによると現在の聖堂は信徒一戸あたり百四十万円の供出と

労働奉仕によつて建てられ、ステンドグラスにはキリストとともに地区の人々の姿も見られるとのこと。つぎに、江袋教会(イエスのみ心に捧げられた教会、聖年の巡礼指定教会)を訪問し祈りを捧げました。このあとはチャーター船上より潜伏キリシタンの信仰と弾圧の歴史を伝える場所キリシタン洞窟の巡礼後、下五島地区五島市に入りました。

先ず、五島市久賀島浜脇教会(イエズスのみこころに捧げられた教会)の巡礼でした。ここは次の牢屋の窄、殉教事件へと発端となった教会です。そして、三日目最後の巡礼地、牢屋の窄殉教記念教会(殉教者顕彰のための教会)でも祈りを捧げました。

この殉教地では子供達も多く殉教者に含まれており一人ひとりの年齢と名を刻んだ石碑が並んでいました。この中には殉教時の様子を記したものもあり、当時の様子をうかがうことができました。やはり、いつの時代でも、まっさきに犠牲になるのは子供達や弱い立場にある人々で、いまの世界情勢にも通じるものだと思います。

これで三日目の巡礼も終わって、チャーター船で福江港に着きました。

(次号の「聖年の巡礼の旅②」へ続く)

教区 NEWS 教会

祈りの水辺で

与那原教会

二〇二五年五月二十九日から六月一日まで、クララ修道院にてサダナ黙想会が行われました。サダナとはサンスクリット語で「神への道」を意味します。



前半の二日間は経験者のみのフォローアップ、後半の二日は初めての方も含めI&アドバンスを行いました。

基本、最初は体の知覚から始まり、聖ベネディクトの祈り、聖書の中に入って祈る、アイコン画による瞑想、マリアの母性、心の内奥の灯火、そして、ミサ。後半の二日は、初めての方にも合わせ、想像を活かす瞑想、自分の過去をありのままに見つめる、椅子を用いて祈る、そして、ミサと、日々の参加者に合わせた内容で進められました。

なぜ私たちは、何のために黙想するのか、如何に黙想するのか、各個人が課題を持ちつつも、殻を破り、或いは立ち止まり、又、一段上に登ることもできたようです。

きたかとも思います。

例えば、ヨハネの福音書一章一節から九節にかけて、ベトザダの池でのイエスを鑑みて、何を祈り、どのような心の動きがありましたか、ゆつくりと聖書を味わい、感じ、自身の心の内に何か変化が生じることがありましたでしょうか、と。

普段、何気なく、福音書を読み飛ばしているかもしれない、その一節一節をゆつくりと読み進めることによって、気付かされることが多々ありました。

期日を絞って黙想に専念できること、またその環境も含め、改めて、こんなにも有意義であることも感じました。今回参加した十五名の方も同じ気持ちだと思います。

ご指導くださった植栗神父様（イエズス会）、また、ご協力頂いたシスター方、マリナーズカフェへお礼申し上げます。ありがとうございました。今後とも継続してゆきますので、その祈りを深めていければと思います。二〇二六年は九月三日から六日の予定となります。

（佐藤芳樹）

父の日のお祝い

名護教会

六月十五日（日）は父の日でした。教会のお父さん方へ、神父様から祝福をいただき、ミサ後は茶話会でお祝いしました。また、マイケル神父様の誕生日が六月二十日なので、少し早めの誕生日祝いも一緒におこなわれました。

茶話会は、稲嶺さんとルーシーさんの手作り料理をみなで美味しくいただきながら、楽しく和やかなときを過ごしました。神父様へは、ハッピーバースデーの歌でお祝いし、女性の



会から誕生日プレゼントが贈られました。お父さんたちと、マイケル神父様、いつもありがとうございます。どうぞこれからもお元気で、家族のため、教会のためにがんばってくださいますよう、よろしくお願いいたします。（渡慶次純英）

計報

◆石垣教会

マリファ 木村 秀 様

二〇二五年八月十三日帰天 享年九十三

◆開南教会

クララ 高嶺 富子 様

二〇二五年八月十八日帰天 享年八十二

◆石川教会

テレジア 山城 節子 様

二〇二五年八月三十日帰天 享年九十二

那覇教区サマーキャンプ 第56回(2025年)

「希望の人となって」
Become a PERSON of HOPE

- ◆小学生（小学生3～6年生）
8月1日～3日（金～日曜日）
Elementary: August 1-3
- ◆中・高生
8月11日～13日（月～水曜日）
Junior / Senior High: Aug. 11-13



那覇教区子どもと 女性の権利を擁護するデスク



相談窓口
☎098-863-2020

火・水・木
13:00～17:00

4月から 那覇教区に派遣された紙崎新一神父様



1961年8月8日生誕

1990年司祭叙階

長崎大司教区であちらこちらの小教区で奉仕する傍ら、司牧福音化推進部長を務める。沖縄に派遣されるに当たり、聖書のみ言葉を分かち合ってみ言葉に導かれた共同体を作っていきたいと抱負を語っておられました。石川教会に赴任しておられます。

洗礼と初聖体 おめでとつございます

開南教会

洗礼 二月十六日

ガブリエル

金城 剛

石垣教会

洗礼 六月二十二日

ガブリエル

石垣 結琉和

初聖体 六月二十二日

ラファエル

石垣 吾朗

泡瀬教会

洗礼 四月十九日

フランシスカ

内間 リコ

カテリーナ・ボルピチエリ
オッチョーア 由加里

ヨセフ

池宮城 清

GUSE ヨセフ・イカン・フン
Therese of Lisieux Ophelia Thero
Nerstheimer Ugwu Leo Ugachukwu

初聖体 四月二十日

ラファエル

屋良 朝碧

ミカエル

屋良 玲季

安里教会

洗礼 四月十九日

ベロニカ

貞野 律子

マリア

徳嶺 歩

クララ

崎原 勝美

マリア

山里 奈巳

ヨハネ

山里 優知

ナザレのヨハネ

本成 朝次

初聖体 セシリア

本成 こはる

幼児洗礼 ラファエル

知念 蒼士

具志川教会

洗礼 四月十九日

テレサ 渡辺 静子

NPO 法人ぶどう園の会



訪問看護ステーション クララ



TEL&FAX:098-937-5001

住所 沖縄市泡瀬2丁目37-15

・基本受付 月曜日～金曜日(申込、相談など)

・営業時間 8:30～17:30

・営業日 24時間365日(緊急対応含む)

7月

一日黙想会へのご案内

指導者：浜崎眞実神父様

テーマ：イエスは言われた

日時：2025年7月12日(土) 受付 9:30

講話：10:00～11:00

ゆるしの秘跡：11:15～12:15 (希望者)

昼食・各自：12:15～13:15

分かち合い：13:15～14:30

ミサ：15:00～16:00

※持参するもの 聖書・弁当・飲み物・会費500円

連絡先：098-945-2354 098-945-8649

聖マリアの汚れなき御心のフランシスコ姉妹会



葬祭の 「やすらい企画」

私たちは故人とご遺族の意向を最優先に考えます。何でもご相談下さい。

那覇市首里鳥堀町4-57-3

TEL&FAX:098-885-8205

<http://w1.nirai.ne.jp/yasurai>

E-mail:yasurai@nirai.ne.jp

24時間
受付

～ご遺族の心をもって奉仕する～

そうてんしゃ

葬典社

*創業30数余年・・・

*皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるためのお手伝いをさせていただいております。

*ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。

「ゆうなの会」会員募集中です。

ひが たかしげ
(実務担当) 比嘉 高茂

24時間
受付

てんごく

☎098-853-1059

